

ふらべじ

Flower & Vegetable

Vol.18 2002
8.2
新 緑 の 号

発行 北海道立 花・野菜技術センター



初夏の青空に涼やかな鐘の音

カンパヌラ ラクチフローラ

Campanula lactiflora

「カンパヌラ」はラテン語で「小さな鐘」。その愛らしい花形は世界中で人気があり、切り花、鉢花、ロックガーデンなどに適した多くの園芸品種が作り出されています。花色は紫や青、白のものが多く、暑い夏に清涼感を与えてくれる花として貴重な存在です。

ラクチフローラはコーカサス原産の多年草で、草丈が1 mほどになるので、主に切り花として利用されています。パステルカラーの小さめの花がたくさん着き、可愛いイメージです。寒さに強く、高温多湿を嫌うので北海道にあう花と言えるでしょう。

カンパヌラの仲間を色々集めてみるのも楽しみ方のひとつですね。

ご あ い さ つ

場長 宮浦 邦晃



本年、4月に当センターの場長として赴任してまいりました。私は、6年前の当センター開設時の研究部長として4年間勤めた後、北見農試に場長として2年間在職しておりました。久しぶりに戻ってみますと、開設時のあわただしい雰囲気からようやく落ち着き、なにかしら他の農試のような伝統さえ感じられ、不在にしていた2年間で大きく変わったものだと驚くとともに、急成長した我が子に立ち会えなかったことへの一抹の寂しさも感じました。

さて、当センターは全道の花と野菜研究の中核的試験研究機関であり、同時に中央農試が担当する道央5支庁の地域対応を補完する役割も担っております。技術普及部に2年前に設置された技術体系化チームも順調に成果を上げつつありますが、今後は課題ごとに地域の協議会を設立して、地元の生産者や普及センター、農協などと更に密接に連携するとともに、当センターとしても全場的な協力体制となるようにしたいと思っております。また、研究ニーズの積極的な掘り起こしとニーズへの実質的な対応、さらにはこれによって現場に密着した研究シーズの構築を目指します。試験研究ばかりでなく農業者への情報提供、指導者の研修、担い手・新規参入者への営農協力も重要な役割であると思っておりますので、引き続きフォーラムや市民講座などの開催も積極的に行いたいと考えております。関係者の皆様のご理解とご協力を引き続き得られることを期待しております。

平成14年度の主な研究課題*

花き科

- ・花ユリの新品種育成 (平成13～17年)
- ・デルフィニウムの新品種育成 (平成13～17年)
- ・球根花きのコンテナ栽培による開花調節 (平成12～16年)
- ・花き栽培用雪冷房システムの実用化 (平成14～15年)
- ・リンドウの栽培法改善試験 (平成13～14年)

園芸環境科

- ・寒地畑作型野菜の安定・高付加価値生産技術の開発と低コスト貯蔵・流通技術の確立試験 (平成11～15年)
- ・栄養診断に基づく花きの養液土耕栽培 (平成13～15年)
- ・高粉質かぼちゃの安定生産技術 (平成14～18年)
- ・輸入野菜の品質調査 (平成14～16年)
- ・夕どり収穫方法を活用したハウレンソウ等の硝酸濃度低減化 (平成14～16年)

技術普及部

- ・道央水田地帯における複合的施設園芸作物導入の経営・技術指針 (平成12～15年)
- ・メロンつる割病抵抗性台木品種「空知台2号」の実証によるメロン安定生産支援 (平成13～14年)
- ・宿根かすみそうの多茎仕立て技術の実証による産地支援 (平成13～14年)

野菜科

- ・メロン新品種育成 (平成12～16年)
- ・中玉トマトの高品質・省力栽培のための品種特性解明 (平成14～16年)
- ・短節間カボチャの省力栽培技術の開発 (平成9～16年)
- ・グリーンアスパラガスの新品種・新造型に対応した多収維持管理法 (平成9～17年)
- ・ヤーコンの紙筒利用による育苗法 (平成12～14年)

病虫害科

- ・ミカンキイロアザミウマの総合防除技術の確立 (平成10～14年)
- ・スターチス・シヌアータの灰色かび病被害軽減のための栽培法の改善 (平成12～14年)
- ・トマト細菌病の診断法の開発と発生に対応した防除対策の確立 (平成14～17年)
- ・ダイコンパーティシリウム黒点病に対する高精度簡易土壌検診法の開発 (平成11～15年)
- ・ラークスパーの芯止まり症の被害に関する調査

* 共同研究課題に関しては代表する科のみを記してあります

露地栽培グリーンアスパラガスの品種選択指針

グリーンアスパラガスは北海道の冷涼な気候にあった作物として、古くから栽培されています。近年、道産物品質の再評価がされ、市場価格が比較的安定し、新品種、新作型の導入もあり、作付け意欲が高まっています。このため、品種特性の明確化とそれらに対応した栽培法の確立が求められています。

今回、産地における品種選択の指針を示すことを目的として最近の主要27品種・系統について、生育特性（4項目）、病害発生程度（2項目）、収量性（7項目）および品質（5項目）の相対評点をクラスター分析し、5類型に分類しました。

- A群：多収、生育良、耐病性強、外観品質中、内部品質良。
 B群：やや多収、生育良、耐病性強、外観品質劣る、内部品質中。
 C群：やや多収、生育やや劣る、耐病性弱、外観品質良、内部品質劣る。
 D群：やや低収、生育中、耐病性強、外観品質劣る、内部品質良。
 E群：やや低収、生育劣る、耐病性劣る、外観品質良、内部品質中。



▲アントシアンの着色したアスパラガス

表1 各群の主な生育・収量及び品質特性と総合的評価

群	品種・系統名	欠株率 %	GI /100	斑点 病株 率 %	規格 内 茎重 Kg/10a	1株以 上 割合 %	頭部 の しまり	アント シア ン 着色	ビタ ミン C 含量 mg/100g	総合的評価
A群	ガインリム	0.0	134	2.7	639	47	3.4	1.4	26	△群 生育特性 耐病性 内部品質 外観品質 収量性
	ヴェンリム	0.0	113	6.4	550	66	3.2	1.5	25	
	バックリム	1.7	117	4.8	481	70	3.0	1.2	20	
	ティーリム	1.7	107	8.0	499	62	3.0	1.0	21	
	平均値	0.9	117	5.5	543	62	3.1	1.3	23	
B群	カーリム	6.7	115	11.2	511	29	2.9	2.0	25	□群 生育特性 耐病性 内部品質 外観品質 収量性
	ホーリム	1.7	108	11.3	424	45	3.1	1.5	23	
	フルート	6.7	92	9.5	451	39	2.8	2.0	30	
	KJ1610	3.3	96	12.7	495	22	2.8	1.9	26	
	エリート	8.3	108	10.9	483	35	2.9	2.2	23	
	フランクリム	0.0	88	15.9	544	36	2.9	2.2	20	
平均値	4.5	101	11.9	485	34	2.9	2.0	25		
C群	ウエルカム	11.7	82	22.3	485	52	3.8	1.2	22	◇群 生育特性 耐病性 内部品質 外観品質 収量性
	バイトル	10.0	72	13.7	406	45	3.9	1.3	19	
	グリーンタワー	10.0	75	19.2	452	37	3.8	1.1	21	
	シャワー	16.7	73	21.7	401	38	3.5	1.2	20	
	ポールランド	6.7	79	17.7	436	41	3.6	1.2	23	
	キャンドル	6.7	81	12.5	500	38	3.9	1.2	19	
	ナゲカ [®] ラコールド	18.3	78	10.4	440	31	3.8	1.1	21	
平均値	11.4	77	16.8	446	40	3.8	1.2	21		
D群	雄次郎	13.3	68	5.7	446	29	3.2	1.5	24	○群 生育特性 耐病性 内部品質 外観品質 収量性
	北大系65×19	16.7	69	4.9	322	17	3.6	1.5	31	
	月交2号	5.0	83	7.0	439	24	3.3	1.5	26	
	ズイユウ	8.3	83	11.0	380	18	3.3	1.9	25	
	北海100	11.7	80	15.7	318	29	2.8	1.9	30	
	KJ1611	8.3	74	13.5	431	28	3.3	1.6	25	
平均値	10.6	76	9.6	389	24	3.2	1.6	27		
E群	リーワシントン500W	6.7	88	14.2	366	34	3.6	1.4	25	▽群 生育特性 耐病性 内部品質 外観品質 収量性
	UC157	8.3	83	19.7	432	31	3.5	1.2	24	
	UC800	15.0	82	19.2	307	27	3.4	1.3	27	
	ポールトム	13.3	77	27.2	303	31	3.7	1.5	21	
平均値	10.8	82	20.0	352	30	3.6	1.4	24		

・頭部のしまり：5＝良、1＝不良

・アントシアニン着色：5＝強、1＝弱

・GI：成育指数

ガーデニングセミナーが 開催されました！

6月14日にガーデニングセミナーを開催しました。滝川市をはじめ、周辺市町村から参加された21名の方が少し汗ばむ陽気のなか、楽しそうに作業しておられました。



▼ハンギング作りの
実技指導

▲「草花のやさしい管理」
について講義

花・野菜技術センター/
植物遺伝資源センター

公開デー2002

日程：8月29日(木) 10:00～15:00

会場：花・野菜技術センター
～催し物のご案内～

フラワーアレンジメント教室

押し花教室

植物遺伝資源の展示

機械展示

病害虫相談と土の診断

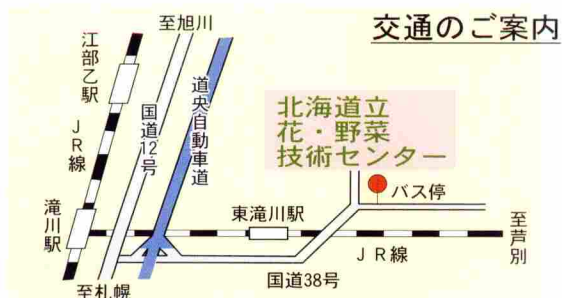
(作物・虫・土をご持参いただければ診断いたします)

野菜の展示とクイズ

花の鉢あげ体験コーナー

栽培圃場(ハウス)の見学

新技術フィールドセミナー(生産者対象)



交通のご案内

平成14年度 北海道花き・野菜技術研修が スタートしました！

4月16日より平成14年度北海道花き・野菜技術研修がスタートしました。今年度は、総合技術研修6名(花きコース2名・野菜コース4名)、専門技術研修2名(野菜コース2名)の研修生が受講しております。研修の様子については、当センターホームページ「The研修Now」にて掲載しておりますのでご覧ください。



▲平成14年度の研修生の皆さん

研修は平成9年からスタートし、今年で6年目を迎えました。修了生は全道各地で地域のリーダーや技術指導者として活躍しております。

また、課題解決研修として「アスパラガスフォーラム」等の各種セミナーや、市民スクールとして「ガーデニングセミナー」等を開催し、多くの方に受講していただいております。

これからも、北海道における花き・野菜のより一層の振興を目標に、総合技術研修、専門技術研修をはじめとしてさまざまな研修を行ってまいりますので、皆さんも是非ご参加ください。

各種研修については当センター技術普及部主査(研修)までお問い合わせください。

北海道立 花・野菜技術センター

〒073-0026 北海道滝川市東滝川735番地
Tel 0125-28-2800 FAX 0125-28-2299

www.agri.pref.hokkaido.jp/hanayasai/index.htm

E-mail hana_yasai@agri.pref.hokkaido.jp